

# 新・下野市風土記

## 文化財の調査と保存・活用



下野市教育委員会 文化財課

例年より少し開花の早かった桜の下で、コロナ禍の影響を見据えつつ、多くの方々が久しぶりの花見を楽しんだことと思います。淡墨桜の開花の報道に誘われ、休日には多くの方々が天平の丘公園にお越しくださり、公園内のしもつけ風土記の丘資料館にも、たくさんの方にお立ち寄りいただきました。

そもそも、しもつけ風土記の丘資料館や栃木県埋蔵文化財センターは、しもつけこくぶんじあと 下野国分寺跡や あまであと 尼寺跡、周辺の栃木県を代表する数々の古墳がこの地に所在しなければ、ここには誘致されませんでした。

現在、史跡として保存・整備されている下野国分寺跡は、江戸時代からその所在地について知られていましたが、尼寺跡は昭和39年4月19日までその所在地が判明していませんでした。この日、現在の尼寺跡は工場を新設するため、樹木の伐採が行われ、重機による整地が行われる直前の状況でした。この時、偶然にもこの年度から国史跡下野国分寺跡の調査に着手する予定で、国分寺跡に県の担当職員が赴いており、工事地内において多くの瓦が散乱していることを聞きつけ、すぐに工事の中止が伝えられました。それから昭和43年度の4次調査まで調査が継続され、国分寺中学校の生徒たちも4次にわたり発掘調査のお手伝いをしてくれたと調査報告書には記されています。昭和40年4月9日には国の史跡に指定され、全国の国分尼寺跡で初めて史跡公園として整備が行われ、現在の天平の丘公園の核となり、その後、公園用地が拡大されていきました。

このように、偶然のようなかたちで尼寺跡が発見され、偶然にもこの年に予定されていた国分寺跡の調査の予算が尼寺跡の調査に充てられ、その後、必然的に調査が継続され、保存とともにおよそ60年の歳月を経て、令和の大嘗祭での歌の題材として取り上げていただけるような公園となった天平の丘公園。一瞬にして無くなってしまふ文化財もあれば、未来へ継承され、市民の皆さんの憩いの場として新たな活用がなされるのも文化財です。

下野市の貴重な文化財が、永遠に守り継がれることを切に願います。



下野国分尼寺跡の淡墨桜